

◆ソニービジネスソリューション：スカパー JSAT 株式会社から次世代マスター設備向け大規模 IP ルーティングシステムを受注

ソニービジネスソリューション株式会社は、スカパーJSAT 株式会社（以下スカパーJSAT）より、次世代マスター設備向けのIP ルーティング設備を受注し、システム構築を行う。今回受注したシステムは、スカパーJSAT が2019 年前後に更新を予定している次世代マスター設備に向けたもので、IP ライブ伝送技術「ネットワーク・メディア・インターフェース」を用いて、取り扱うベースバンド信号を切り替えるIP ルーティング設備。IP により将来の拡張性が担保され、さらにHD から4K への系統変更も柔軟に行える。

スカパーJSAT は、従来のSDI 方式では困難である、1000 系統を超える大規模なシステム構築と、経路二重化による冗長構成を実現することをめざして、IP 技術を採用した設備構築を決定した。

今回、ソニーのIP Live プロダクションシステム採用の決め手となったのは、ソニーが世界各地の中継車やスタジオシステムをIP で構築・導入している実績や、これまでスカパーJSAT に導入してきた世界初の4K HDR 対応中継車・4K 送出設備などのシステム構築の実績、保守体制などがある。また、IP ライブ伝送方式としての高い互換性、開発環境の容易さも受注に至るポイントとなった。

ソニーが推進しているIP Live アライアンスは、2017 年11 月現在、技術賛同パートナーが70 社を超え、ソニーは各社へ向けた技術仕様書の提供、開発用ボードの提供、SDK の提供、賛同パートナーが開発した機器の相互互換性評価などを行っている。

[主な受注システム機器]

IP Live システムマネージャー [PWS-110NM1]
シグナルプロセッシングユニット [NXL-FR318]
SDI-IP コンバーターボード [NXLK-IP40F]

◆ソニービジネスソリューション：日本テレビ放送網株式会社より麹町新スタジオ（仮称）向けの4K HDR 対応制作スタジオ設備を受注

ソニービジネスソリューション株式会社は日本テレビ放送網株式会社（以下日本テレビ）より、4K HDR 制作に対応する制作スタジオ設備を受注した。4K HDR / HD SDR の同時ライブ映像制作の実現と、12G-SDI でのシステム構築を評価され、今回の採用決定となった。今回受注したシステムは、4K 映像信号を1 本の同軸ケーブルで伝送できるインターフェース12G-SDI をベースに構築される4K ライブ制作システムとしては、ソニーとして国内初の受注となる。

ソニーの提唱する4K HDR / HD SDR の同時ライブ映像制作を実現するワークフロー「SR Live for HDR」に対応し、制作用フォーマットに「4K HDR/S-Log3/BT.2020」を用いてカメラの性能を最大限に生かすとともに、HDR プロダクションコンバーターユニット [HDRC-4000] の導入により、HLG (Hybrid Log-Gamma)、PQ (Perceptual Quantization) など複数の配信フォーマットに対応した効率的なライブ制作を実現している。カメラシステムに [HDC-4300]

を使用し、高精細な4K HDR 映像撮影はもちろん、新たに追加された撮影モード「HLG_Live」を選択すれば、撮影段階からHLG での番組制作も可能。用途に応じたワークフローを、番組に合わせて選択できる。

ソニーは、機器間の映像/各種信号の伝送にIP を用い、制作システム全体をネットワーク上で一元管理できる「IP Live プロダクションシステム」を推進しており、4K ライブ制作設備需要の拡大を受けて、12G-SDI を使用し、従来のHD 設備と同様の運用確保を要望するニーズにも対応する。製品開発においても、カメラ、スイッチャー、サーバーなどライブ制作システムを構築する主要機器のIP ライブ伝送対応と、12G-SDI 対応の双方を進めていく。

[主な受注システム機器]

マルチフォーマットスイッチャープロセッサー [XVS-8000]
マルチフォーマットポータブルカメラ [HDC-4300]
30 型4K 有機EL マスターモニター [BVM-X300]
55 型業務用4K 有機EL モニター [PVM-X550]
HDR プロダクションコンバーターユニット [HDRC-4000]

◆ソニービジネスソリューション：長寿命・高安全リチウムイオン蓄電池を搭載した48V 直流電源装置を受注

ソニービジネスソリューション株式会社はリチウムイオン電池を搭載した48V 直流電源装置を新たに商品化し、その1 号機を日本デジタル放送システムズより、テレビ放送中継局用送信機のバックアップ電源として受注した。本商品は東京民放キー局と千葉テレビとの共同設備として2018 年3 月に千葉県丸山局に納入される予定。

従来、デジタル放送中継局用送信機のバックアップ電源には、鉛蓄電池を搭載した直流電源装置が使用されてきた。昨今の気象変動や災害の激化により、中継局では、厳しい環境においてもより故障リスクが低く、長寿命な装置が求められている。

今回、受注した48V 直流電源装置は、落雷や塵埃環境を想定した信頼性の高い充電器と長寿命・高安全なリチウムイオン蓄電池を組み合わせ、装置全体の期待寿命を15 年で設計、ファンや蓄電池などの部品を定期交換する必要がなく、メンテナンスコストの大幅な削減に貢献する。

加えて、今回搭載するリチウムイオン蓄電池は、小型軽量化により従来の鉛蓄電池と比べて、同じバックアップ時間なら蓄電池個数も総重量も半分以下となる。また、収納盤に分解組立可能なラックを採用している。これらにより、山岳部に多く建設されている中継局への山道搬入にかかる時間やコストの低減に貢献でき、これらの特長が顧客に高く評価され、今回の受注に至った。

今年度より地上デジタル放送中継局の機器更新が本格的にスタートしており、ソニーは、今後も中継局用送信機に最適なバックアップ電源として48V 直流電源装置の導入を進め、放送サービス事業をサポートしていく。

【問い合わせ先】

ソニービジネスソリューション株式会社
TEL : 0120-580-730

◆ソニー：ホログラム光学技術を採用した AR 技術が新たな ツーリズム事業を促進

ソニーは、株式会社近畿日本ツーリスト東北および近畿日本ツーリスト株式会社（以下「KNT グループ」）が震災による防災・復興の記憶の継承を狙いとして実施する「せんだいAR HOPE TOUR」に、ソニー独自のホログラム光学技術を採用したAR（拡張現実）グラスを提供する。

「せんだいAR HOPE TOUR」は、東日本大震災の津波による甚大な被害を被った荒浜エリア（仙台市若林区）にて、2017年11月22日（水）に実施する復興ツーリズムの取り組みの一環となる実証実験。本実験は、主に震災・防災関係者などを対象としている。荒浜エリアの複数個所でソニーの光学デバイス技術を採用したARグラスをかけ、震災前や震災時の画像を実際の風景と重ね合わせて見て頂き、ナレーションと合わせて被災地の記憶を伝えていく。

ソニーは、ホログラム光学技術を採用したディスプレイモジュール「LMX-001」を開発以降、保護メガネやヘルメットのメーカーなど、様々な企業との実証実験を行っており、モジュールを使ったAR体験の応用領域の拡充を進めている。

【問い合わせ先】

ソニー株式会社

TEL：03-6748-2200

◆キャノン：4K 放送用カメラ対応ポータブルズームレンズで 最高倍率を実現 “CJ45e × 9.7B” と “CJ45e × 13.6B” を発売



CJ45e×9.7B



CJ45e×13.6B

キャノンは、2/3 型センサー搭載の 4K 放送用カメラに対応するポータブルズームレンズとして最高倍率を実現した “CJ45e × 9.7B” を 2018 年 4 月上旬より、最高倍率・最長 焦点距離を実現した “CJ45e × 13.6B” を 2018 年 4 月下旬より発売する。

新製品 “CJ45e × 9.7B” は倍率 45 倍/ 焦点距離 9.7437mm、“CJ45e × 13.6B” は倍率 45 倍/ 焦点距離 13.6612mm の、4K 放送用カメラに対応した高い光学性能を持つポータブルズームレンズ。望遠撮影の機会が多いスポーツやコンサート中継などに適しており、さらに、“CJ45e × 13.6B” は中規模中継車用や監視用としてのニーズにも応える。

■ 4K 放送用カメラ対応のポータブルズームレンズとして 最高倍率・最長焦点距離

新製品 2 機種はどちらも高倍率・長焦点距離を実現したズームレンズであるため、広角から超望遠まで幅広いシーンをカバーすることができる。また、内蔵エクステンダーにより、望遠端 焦点距離を

“CJ45e × 9.7B” では 874mm、“CJ45e × 13.6B” では 1224mm と 2 倍にできるため、さらなる望遠撮影も可能。

■ 4K カメラに対応する高い光学性能

蛍石や UD ガラスを多用するとともに、それらを最適配置する独自の光学設計技術を用いることで、ズーム全域で画面の中心部から周辺部まで、高品位な 4K 光学性能を達成している。被写体のクローズアップ撮影から会場全景などのワイド撮影まで、さまざまな場面で高精細な 4K 撮影を可能にする。

■ HD 超望遠レンズ同等の小型・軽量な筐体

高倍率・長焦点距離で 4K 放送用カメラ対応の高い光学性能を持ちながら、HD 対応の超望遠レンズと同等の小型・軽量な筐体（きょうたい）を実現し、放送用途に求められる機動性を確保している。

【問い合わせ先】

キャノンマーケティングジャパン株式会社

TEL：03-3740-3304

◆アストロデザイン：世界初 DLP 8K プロジェクタを発表

アストロデザイン株式会社、台湾 Delta Electronics 社及び同社グループ傘下の英 Digital Projection 社の 3 社は、共同プロジェクトにより世界初となる DLP 8K プロジェクタを開発した。シネ



マプロジェクタで定評のある英 Digital Projection 社の基盤技術をベースに、アストロデザインが従来から培ってきた 8K 映像技術を盛り込むことで、従来の、「暗い」、「重い」、「設置が大変」といったプロジェクタにまつわる概念を打ち破る、画期的な製品を実現した。高輝度光源にレーザーを使用することにより、プロジェクタとしては圧倒的な 25,000 ルーメンの高輝度を実現した。HDR（HLG）にも対応する。

長寿命デルタグループが培ってきた高い熱対策技術により、光源を完全に密閉する事に成功した。光源を密閉する事で 2 万時間という長寿命を実現させている。

オペレーションの向上天井吊り、台置き、双方に対応。難しい調整など一切無く、設置完了後すぐに起動、上映することが可能。

本製品は InterBEE2017（国際放送機器展）に展示された。

【問い合わせ先】

アストロデザイン株式会社

TEL：03-5734-6100

◆ブラックマジックデザイン：トレインの「Play That Song」夏季ツアーで Teranex AV を使用

アメリカのポップロックバンド、トレインの「Play That Song」夏季

ツアーで、Teranex AV、Videohub CleanSwitch 12x12 ルーター、Videohub Smart Control、HyperDeck Studio Pro 放送デッキ、SmartView Duo モニター、UltraStudio 4K キャプチャー・再生デバイスなどの複数のBlackmagic Design 製品が使用された。

1998 年に Billboard Hot 100 に「Meet Virginia」で初めてチャートインして以来、トレインは「Drops of Jupiter (Tell Me)」、「Calling All Angels」、「Hey, Soul Sister」などでチャートを賑わせている。最新 アルバム「A Girl, a Bottle, a Boat」のプロモーションとしてスタートした 2017 年の「Play That Song」コンサートツアーでは、O.A.R. やナターシャ・ベディングフィールド(Natasha Bedingfield) が前座を務めた。5 月のラスベガス公演を皮切りに始まった同ツアーは、10 月の北アイルランド公演で幕を閉じた。

シカゴに拠点を置くプロダクションデザイン会社、So Midwest のプロダクションデザイナーであるロブ・ジブソン(Robb Jibson) 氏は、ツアー中に Teranex AV を使用して、d3 メディアサーバーからの HDMI 信号をビデオウォール用に SDI に変換したという。

Teranex AV からの出力は、Videohub Smart Control を接続した Videohub CleanSwitch 12x12 に送信された。バックアップの d3 メディアサーバーと、バックアップの Teranex AV も CleanSwitch に送信され、異常が発生した際には Videohub Smart Control がマクロを起動して、CleanSwitch が他の入力に切り替えるように設定された。さらに、同氏は Teranex AV を、カメラからの 3 つの入力の分配増幅器として使用した。Videohub Smart Control を使うことで、セットアップ中に異なる角度からチェックでき、確実に 4 つの入力信号が得られているかテストできた。

また、複数の HyperDeck Studio Pro を使用して、収録や幕間に CM の再生を行なった。舞台の様子をモニタリングするために SmartView Duo も使用された。さらに UltraStudio 4K を入力および出力に使用し、最終的な合成のレンダリング前に、メディアサーバーで事前にレンダリングしたコンテンツをライブで確認した。

「かつては、コンテンツを作成し、ファイルを書き出したあと、別のコンピュータでファイルを読み込み、どのように見えるか再生して確認していました。しかも、会場に到着するまで実際にどのようなルックになるか分からず、会場によって要件も異なるので苦労しました。UltraStudio 4K を入力として d3 の Stage Visualizer を使用できることが分かり、コンテンツを作成しながらルックを確認できました。UltraStudio 4K をコンピュータの補助ディスプレイへの出力に使用しました。これにより、レンダリングとファイル転送に掛かっていた時間を節約でき、本当に助けられました」と同氏。

「Blackmagic Design の製品は、ワークフローの様々な場面において効率を上げるのに大きな貢献を果たしています。毎日移動を繰り返し、毎晩、新しい場所でセットアップを行うコンサートツアーでは、少しでも作業時間を削ることができるのは非常に大きな助けになります。これらの製品は日々の作業の鍵を握る存在で、このツアーを成功に導いた影の主役と言えます」と同氏は締めくくった。

【問い合わせ先】

ブラックマジックデザイン

<https://www.blackmagicdesign.com/jp>

◆フォトロン：ファイルベーストランスコーダ「Vantage」を株式会社 AbemaTV に納入

放送 / 映像関連機器の開発・製造・販売・輸出入を手掛ける、株式会社フォトロンは販売をおこなっている米国 Telestream 社のファイルベーストランスコーダ「Vantage」、高速処理サーバーハードウェア「Lightspeed Server」を、株式会社 AbemaTV に納入した。

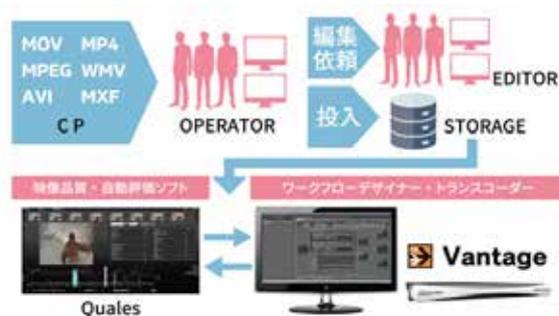
「AbemaTV」はコンテンツプロバイダーから入稿される多種多様な映像素材のコンテンツチェックやトランスコードなどのワークフローを「Vantage」で自動化し、配信コンテンツの品質強化を実現した。

2016 年春の開局以来、「AbemaTV」では、チャンネル数の増加や自主制作番組の配信などに伴い、取り扱うコンテンツ数が増大していた。コンテンツプロバイダーから届く多種多様なフォーマット / 解像度の映像コンテンツを品質を担保された規定フォーマットにするため、コンテンツのノイズ、コンテナフォーマット、ファイルサイズ、画面サイズ、アスペクト比などの膨大な量のチェックや編集指示、エンコードを手作業でおこなっていた。

Vantage を導入したことにより、コンテンツプロバイダーから届く映像素材からさまざまな情報を取得してコンテンツをチェック、トランスコードの要 / 不要を自動で判断し、個々のフォーマットに応じたエンコード処理などを、人手を介することなく行うようになった。

【Vantage 製品概要】

Telestream 社「Vantage」は、大量のファイル処理を自動化するためのオートメーションエンジン。トランスコード、素材管理、ファイル解析、ファイル品質管理、メタデータ処理等のワークフローを可視化するツールを提供し、効率の良いファイルベースワークフロー構築を実現する。



◆フォトロン：EVS イノベーションズセミナーを開催

株式会社フォトロンは販売をおこなっている EVS 社の製品セミナーを 10 月 17 日 (東京)、10 月 20 日 (大阪) で行った。ワンマンプロダクションシステムの X.ONE の他、360° 映像のスローリプレイや A.I. を使ったスポーツ中継制作など、EVS 社の担当者をゲストに呼んで解説を行った。

【ワンマンプロダクション EVS X-One】

カメラのスイッチング、グラフィックス、リプレイ等をワンボックスでおこなうプロダクションシステム。ワンマン操作で本格的な映像

制作を実現する。

- ・一人のオペレータがタッチパネルでコントロール
- ・ビデオスイッチング
- ・スローリプレイ 6 カメ SDI 入力サポート、ファイルインポート (CG/ テロップ、アニメーションなど) オーディオミキシング
- ・グラフィックファイルサポート GFX トランジション、タイトル CG、ロゴなど
- ・スタッキング構造で 4K プロダクションをサポート (予定) PGM 収録機能 (予定)
- ・ライブストリーミング機能 (予定)
- ・デジタルビデオエフェクト (picture-in-picture, side-by-side) (予定)
- ・リモートプロダクションサポート (予定)



【IP プロダクションスイッチャー EVS DIVI】

ソフトウェアベースで従来のスイッチャーでは実現できなかった機能・操作性・拡張性さらにはリモートプロダクション環境を提供する。

- ・1 モジュールで 32in 16out に対応 (本体モジュール 2RU サイズ)
- ・モジュールはカスケード可能 システムに入力されたタイミングでピクセルデータ変換

- ・GPU で映像処理、従来とは異なるプロダクションテクノロジー SD, 4K, 8K... 解像度に依存しないシステム構成
- ・VoIP (SMPTE2110) 入出力対応 予定 IP テクノロジーを採用した柔軟なワークフロー



【ビデオ判定アシスタントツール EVS Xeebra】

シンプルな操作でスケーラブルなシステムも実現できる EVS 社ビデオアシスタントレフリー (VAR) システム。

- ・1 台で 8 x Cams 入力 (HD-SDI) 対応
- ・マルチビューワイヤアウトや分割数はリアルタイムに変更可能
- ・タッチパネルで簡単操作
- ・ネットワーク接続で複数個所でモニタリング/ オペレーション可



【360° ライブモーションリプレイ】

360° カメラで撮影した映像をライブリプレイ。360° 映像内を自由自在にブラウズし、他に類を見ない演出を実現する。

- ・360° 空間での EVS スローリプレイ
- ・これまでにないライブ演出を
- ・複数のバーチャルカメラアングルを提供

【AI スポーツ映像制作ツール】

AI (人工知能) がスポーツ中継映像を解析し、カメラのスイッチング、

フレーミングを自動で実行。AI を活用した映像制作を提案する。

【IP ワークフローオーケストレーション S-CORE MASTER】

IP デバイスの管理や、IP ストリーミングのルーティングを直感的なインターフェイスでおこなえる。

S.CORE Master は EVS が提供する IP ルーティングシステム。

- ・IP ストリーミング対応として設計され、ビデオ / オーディオ ルータとして使用できる。
- ・遅延が致命的なダメージとなるライブプロダクションにも耐えるソフトウェアベースのネットワークコントロールシステム。
- ・ビデオエンジニアにも親和性がある GUI と制御 アプリケーションを提供することで次世代 LiveIP 環境を実現する。

【問い合わせ先】

株式会社フォトン

TEL : 03-3518-6273

◆朋栄 : USF シリーズに 12G-SDI 対応モジュールを追加ラインアップ

株式会社朋栄は、ユニバーサルシステムフレーム USF-212AS に実装可能な USF モジュール製品に、ビデオ分配器、アップ/ダウンコンバータなど新たに 4 種類の 12G-SDI 対応 製品を追加した。

■デジタルビデオ分配器 モジュール

SD/HD/3G/12G-SDI に対応したデジタルビデオ分配器。1 スロットで5 分配出力に対応するUSF-105DDA-12G と、2 スロットで11 分配出力に対応するUSF-111DDA-12G の2 モデルを追加した。

USF-105DDA-12G 価格:13 万円(税別) 発売:2017 年12 月末

USF-111DDA-12G 19 万円(税別) 2017 年12 月末

■アップ/ダウンコンバータ モジュール

フレームシンクロナイザ機能、音声・SDI 信号エラー訂正機能を搭載し、SD/HD/3G/12G-SDI に対応した2 スロット サイズの4K アップ/ダウンコンバータ。4K UHD/HD/SD のインターレース/プログレッシブ変換と、SD から4K までのアップ/ダウン変換のほか、SQD (Square Division)/2SI (2 Sample Interleave) 変換、3G-SDI Level A/B 変換 にも対応。さらに、ITU-R BT.2020/BT.709 の色域変換機能や、HDR/SDR のダイナミックレンジ変換機能を搭載した。

USF-106UDC-12G 価格:110 万円(税別) 発売:発売中(2017 年10 月発売)

■ダウンコンバータ モジュール

フレームシンクロナイザ機能、音声・SDI 信号エラー訂正機能を搭載し、SD/HD/3G/12G-SDI に対応した2 スロット サイズの4K ダウンコンバータ。4K UHD からHD/SD へ、HD からSD へのダウン変換に対応します。ITU-R BT.2020/ BT.709 の色域変換や、HDR/SDR のダイナミックレンジ変換機能も搭載。

USF-106DC-12G 価格:55 万円(税別) 発売:発売中(2017 年10 月発売)



◆朋栄：カナダ Dejero 社の製品を展示

株式会社朋栄はInterBEEにてカナダ Dejero 社の製品を展示した。中継車アンテナと接続、サテライトエンコーダー／トランスミッターとして活用可能なDejero EnGo や、タブレット等を使用し遠隔地からのライブ放送が可能なアプリケーションなど、簡易中継を積極的に支援する。

【ライブストリーム用モバイルトランスミッター：EnGo】

EnGo 車載キット。中継車のアンテナと接続することで、EnGo をサテライトエンコーダー／トランスミッターとして活用可能。



バックパックやカメラ本体に取り付けることで、最大限の可動性を提供する。

ボタンひとつで起動し、ビデオ入力とフォーマット検知機能を自動ですばやく設定可能。シンプルで直感的なタッチスクリーン・インターフェースにより、中継中は面倒な操作に気を取られることがない。

【IP ビデオストリームを SDI に変換：Broadcast Server】

トランスミッターから IP ネットワークを介して伝送されるビデオ



を受信し、再構成し、お客様の SDI 送出ワークフローへと出力。既存施設のサーバー・ラックに設置できるように、あるいは使用中の放送インフラヘシームレスに融合できるようにデザインされている。

【iPhone や iPad から高品質ビデオのライブ送信：Mobile App】

どこからでもライブ放送でき、あとから放送するためのビデオを録画したり、現場に従来の放送機器がない場合でも指定されたサーバーへ編集済みビデオファイルをインポート／アップロード。このアプリは、モバイル・ジャーナリストやプロフェッショナルなビデオ配信者用にデザインされ、ニュース速報、緊急インタビュー、ライブイベント等に理想的な作りになっている。



【問い合わせ先】

株式会社 朋栄

TEL:03-3446-3528

◆ゼンハイザージャパン：ヒューマンビートボックス

日本一決定戦に協賛

一般社団法人日本ヒューマンビートボックス協会（所在地：東京都新宿区、代表理事：和田 辰也）は、2017年11月26日（日）に川崎 CLUB CITTA' で、「Japan Beatbox Championship 2017」決勝大会を開催した。大会のオフィシャルマイクとして、ゼンハイザーの e 945 が採用されており、利用されている。

■「Japan Beatbox Championship」概要

ストリートカルチャーから生まれた、口だけでドラム音やDJのスクラッチ音などを表現し音楽を作り出す「ヒューマンビートボックス」の日本一を決める国内唯一の公式大会。3年に一度開催される世界大会への出場権をかける。2010年12月に国内で初めての公

式大会を渋谷 Club asia にて開催し、2017年で8回目となった本大会は、予選大会を7都市（東京・名古屋・仙台・札幌・福岡・大阪・沖縄）に拡大し、のべ25万人以上の動員数を記録。本年は世界的なオーディオブランド SENNHEISER（ゼンハイザージャパン株式会社）をメインスポンサーにむかえ、過去最大の盛り上がりを見せている。今年度より、ソロバトル・タッグバトルに加え、中学生以下限定のキッズバトルを新種目として導入し、ヒューマンビートボックスの更なる普及・振興と、アジア・世界に通用するビートボックス（ヒューマンビートボックスのプレイヤーの呼称）の排出にも力を入れている。

【問い合わせ先】

ゼンハイザージャパン株式会社

TEL:03-6406-8911

◆パナソニック：学習データ量に応じて自動的に最適なモデルに変化する教師無し機械学習技術を開発

<http://news.panasonic.com/jp/press/data/2017/11/jn171127-2/jn171127-2.html>

パナソニック株式会社は、大量の学習データを収集することが困難なリアルな環境に適用が可能な AI 技術の実現に向けて、学習データの量に応じて自動的に最適なモデルに変化する教師無し機械学習技術を開発した。

この技術は同社のビジネスイノベーション本部 AI ソリューションセンターの研究成果になる。この度、AI 技術における世界最高峰の国際学会である NIPS2017 (Neural Information Processing Systems) に採択された。

【効果】

同社の主要事業領域である家電・住宅・自動車・B2B ソリューションの中には、大量のデータを集めることが難しいために、AI 技術を十分に活用できていないケースも多数存在している。

この課題に対して、本技術を適用することにより、これまで専門家の介在が必要であったチューニング（モデルの調整）プロセスを大幅に削減することができるため、AI 技術の適用可能範囲を飛躍的に広げることが期待できる。

今後の展開としては、本技術の研究開発を更に加速することで、身近な IoT 機器やシステムなどリアルな環境で使える AI 技術の実現に取り組んで行く。

【備考】

本技術は、北海道大学大学院 情報科学研究科の有村博紀教授、喜田拓也准教授、ならびに東京大学大学院 新領域創成科学研究科の佐藤一誠講師との共同研究成果となる。

本技術の詳細については、2017年12月4日からアメリカ合衆国 ロングビーチにて開催される NIPS2017 にて発表を予定している。

【お問い合わせ先】

パナソニック株式会社 全社 CTO 室 広報担当

Email : crdpress@ml.jp.panasonic.com